

食欲不振

Anorexia

食欲不振はすべての病気の根本的な指標と言っても過言ではありません、もちろん病気の名前ではなく症状の一つです。

食欲不振を伴う突然の体重減少は重篤な疾患であることを示唆します。

原因

食欲不振の原因は山程あります。すべての内科的な病気の約9割以上は食欲不振を一症状として現すと言っても過言ではありません。

口や歯などの口腔の問題、胃、腸、肝臓、膵臓などの消化管の異常、心臓や肺などの病気では重篤な食欲不振を起こします。その他、腎不全など泌尿器の問題、伝染病や発熱、痛み、ストレス、中毒などでも食欲不振が起こります。

症状

食欲不振、二次的に体重減少や脱水、電解質異常など。

診断法

食欲不振を診断するというよりは、原因を探る意味で、一般的に行われるのは、一般血液検査、肝臓、腎臓、膵臓に関する血液生化学検査、尿検査、糞便検査、腹部のレントゲン検査や超音波検査です。その他考えられる原因の追及のため伝染病の検査、細菌培養検査など様々なことを行う必要があるかもしれません。

時には様々な検査を行っても原因特定が難しいこともあります。

治療法

通常、原因が判明すればそれに対する治療を行います。原因が判明するまで、あるいは原因が判明してからもサポート的に栄養剤、点滴などを行います。

食欲不振が長期間に及ぶ場合は、鼻から管を通して栄養を補給したり、外科手術により食道や胃、腸などに直接管を通す必要があることもあります。

時には内服薬で食欲を増進させてくれるものもあるのでそれらを併用することもあります。

自宅での看護法

まず、食餌の質などに注意してください。動物病院には食欲不振の時に栄養価の高い処方食や液体、ペースト状、錠剤や

散剤など様々なタイプの栄養剤がありますのでそれらを使い栄養を補給する必要があるでしょう。

食餌を与える場合は、まず懐石料理のように少量ずつ多くの種類の食餌を与えること、食餌を人肌程度に暖めてあげること、水分量を増やすこと、好みの味付けの添加剤を加えること、1日の回数を多くすることなどによりサポートしてみるといいでしょう。特に猫は肉や魚を原料としたものを好みます。また、大きな浅い食器や床から直に食餌を取ることを好む動物もいます。

猫は静かな環境を好みます。なるべく雑音などのしない環境を作ってあげましょう。また、前足に食餌をつけると舐めることにより食餌をしはじめることもあります。なかには飼育者の方に撫でられると安心して食餌をはじめ犬や猫がいることを知っておいてください。

予防法

あらゆる病気を避けることとしか言いようがないのですが、当然、混合ワクチン注射などを定期的に行ない伝染病を予防することは最低限行うべきことでしょう。

その他日頃から粗悪なフードを避け健康管理に注意すること、定期的な健康診断なども役に立つと思います。

また、当然食欲不振が起こったら早めに動物病院を受診することです。

メモ

動物は病気になったときになるべく症状を表に出さないようにします。これは野生で生活していた時に病気の症状を現すとすぐに捕食されてしまうのを避けるための名残だと言われています。ですから動物の場合病気の症状が現れた時にはすでにかなり病状は進んでいることがあるのです。ですから食欲がないようなら早めに対処することが必要です。

また、特に猫はその代謝機能が我々人間や犬とは大きく違います。3日間食べないと肝臓機能が急激に悪化して、肝臓が悪いから食べない、食べないから肝臓機能がさらに悪くなるの悪循環を起こします。猫が食欲不振になったら早急に対処する必要があることを覚えておいてください。さらに、猫は点滴などで長期間維持させることが難しい動物でもあります。必ず口(消化管)から何か食物を入れてあげる必要があるため、食欲がないことへの対処が難しいものです。常備として動物病院で処方されるペースト状の栄養剤などを備えておいて、食べなければそれらをあげるようにするといいいでしょう。

食欲不振の犬や猫の栄養状態を維持するために最も必要なことは、早く自発的に食餌をとれる状態にしてあげることです。そのためには飼育者の協力も必要です。



[広告] ▲上記QRコードで携帯から簡単アクセス可能..